

浪江駅西側地区共創会議 コミュニティ部会（第3回） 個別事業ワーキンググループ結果概要

日時 2026.2.18（水）15時40分-16時40分 ※コミュニティ部会第3部
場所 浪江町防災交流センター会議室
参加者 共創会議会員50名（町民、事業者等）
グループ 事業アイデアピッチ発表者を仮リーダーとする5テーマ

浪江町市街地整備課

2月18日 浪江駅西側地区共創会議コミュニティ部会（第3回）第3部 個別事業テーマ別ワーキンググループ（WG）概要

※第3部への参加は共創会議の会員に限ります。入会手続きは随時受付中です。

分類	仮称WG名	WGテーマの概要	特に参加を期待する業種等	話題提供者	アイデアピッチ
A	継続 燻製ラボWG	間伐材や剪定枝などの多様な未利用木材を燻製チップとして有効活用し、新たな特産品づくりや燻製体験教室、レストラン等の6次産業化事業を検討します。林業・農業・飲食業・研究者などが共創する地域拠点施設「燻製ラボ」を設置し、樹種や燻製技術による香りや風味の違いを研究。地域産食材の燻製商品やオリジナルブレンドチップの研究、開発を通じて、未利用資源の価値向上と地域産業の新たな展開を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・木材関係者 ・食品関係者 ・調理関係者 ・地域振興関係者 ・木材チップや燻製をテーマにした研究や技術、事業に関心のある方 	絆さくらの会 代表 小黒敬三 氏	
B	継続 思い出継承まちづくりWG	災害や再開発により失われる建物や道具などを「ごみ」ではなく「思い出のツール」として捉え、リユースやリサイクルを通じて地域の記憶を未来へつなぐ取組を検討します。解体・分別・再利用の仕組みづくりを進め、古い建物を新たな建物や景観に活かすことで、懐かしさと新しさが共存するまちづくりを目指します。異分野が共創し、持続的な社会や地域、生活スタイルを目指すサーキュラーエコノミー（循環型経済）に貢献する事業モデルを模索します。	<ul style="list-style-type: none"> ・設計、建築、解体、建材業界 ・インテリア、リサイクルリユース、リース、物流倉庫業界 ・物質材料等研究者 ・ランドスケープの研究者、デザイナー、アーティスト ・古材を内外装で活用する店舗事業者 	リサイクルギャラリー リーり庵 オーナー 石橋いづみ 氏	
C	継続 スポーツを活用したまちづくりWG	浪江駅西側地区にて、交流施設（一部FUKUSHIMA WWW.クラブハウス）×オンライン併設医療モール（仮）を拠点とした、Well-Beingなまちづくりとダイバーシティ&インクルージョンへの取組について検討します。駅西側地区はF-REIの建設により性別、年齢、国籍、価値観などの多様な個性が集う地区となります。様々な人が共助互助の関係性を構築し、個々の個性や能力が活かされる場づくりを通して地域住民と共に暮らしやすいエリアとする為のアイデアをみんなで気軽にディスカッションします。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、スポーツまちづくり ・健康関係、福祉/介護関係者 ・地域コミュニティ連携 ・医療関係者 ・上記設計・建築・施工関係者 ・地域拠点関係者 ・ダイバーシティ ・海外交流 ・F-REIとの連携 	READY SOCIAL 株式会社 代表 佐藤夏美 氏	
D	継続 モビリティWG	電動車椅子をはじめとするパーソナルモビリティのシェアリングを軸に、浪江駅西側地区を中心としたラストワンマイルの交通課題解決につながる事業モデルを検討します。地域外から訪れる研究者・事業者・観光客をはじめ、住民や高齢者など多様な移動ニーズに対応し、誰もが使いやすい移動環境の実現を目指します。観光、福祉、日常利用といった分野を横断しながら、エリアマネジメントや関係事業者との連携を視野に入れ、サービスモデルの共創・実証を通じて、浪江町にフィットするモビリティの仕組みを模索します。	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルモビリティ（電動車椅子等）メーカー、販売・レンタル事業者 ・モビリティシェアリング、MaaS、交通サービス事業者 ・観光事業者、旅行事業者、エリアマネジメント関係者 ・地域拠点施設（駅、公共施設、商業施設、宿泊施設等）関係者 ・高齢者支援、福祉・介護、医療関係者 ・物流・施設内搬送、ラストワンマイル配送関係者 ・交通DX、サービス設計、データ活用、アプリ開発等のIT・テック事業者 ・決済、ポイントサービス等の金融・IT事業者 	株式会社渡辺商店 渡邊魁杜 氏 川村航大 氏	○
E	新規 馬とのふれあいWG	ノーマ・ホースヴィレッジが培ってきたホースセラピー、ホースマンシップ等の知見を活かし、浪江駅西側地区において馬事文化に根差した事業を検討します。乗馬体験や餌やり体験など気軽に馬と触れ合える場の創出、馬車によるエリア内移動の仕組みづくり、さらには馬耕体験など馬を活用した農体験の導入等を通して、馬文化が日常に息づくまちの姿を共創します。	<ul style="list-style-type: none"> ・馬と触れ合いたい方 / 乗ってみたい方 ・馬と触れ合う仕事がしたい方 ・馬の扱いができる方 	一般社団法人SOMA 共同代表 高橋大就 氏	○

※その他、前回の「コミュニティFM局を活かしたまちづくりWG」の取組は継続中で、進捗に応じ改めて実施します。

A. 燻製WG + B. 思い出継承まちづくりWG【合同実施】 対話概要 (1 / 2)

前回コミュニティ部会
発表資料 P.12～



(二次元コード読み取り)

■参加者 絆さくらの会 小黒氏、リサイクルギャラリーり庵 石橋氏
他8名 (町内事業者2団体2名、町外事業者3団体4名、町民2名)

参加者	WGテーマに対する発言
絆さくらの会 小黒氏	<ul style="list-style-type: none"> • 前回のWGでは、浪江町のサバやくえたまのような食と掛け合わせたアイデアを出し合った。今回の共創会議ではアイデアを募ったり、燻製に知見のある人を教えてもらいたいと思っている。燻製を福島市でやっている事業者に話を聞きに行った。 • 壽もあるので、道の駅で酒のつまみとして販売してもセット需要がありそうだ。 • 燻製教室など、食材を持ち寄りで燻製が作れる場所は面白そう。また、燻製商品を売るのではなく、材料を販売する形での体験型の事業もニーズがありそうだ。 • 服以外でも鞆や仏壇縮小などいろいろな人とつながって思い出の品にします、といったリメイクは需要がありそうだ。 • 駅周辺整備事業のエリアと、その外側の住宅地の連続性をどのように検討していくかは気になっていた。国の予算が無いので、これ以上駅前エリアは広げられないそうだ。大規模な整備でエリアとしては魅力的になるが、他のエリアとつなげられるような民間開発は必要性を感じている。
リサイクルギャラリー り庵 石橋氏	<ul style="list-style-type: none"> • 着物や家具のDIYを浪江により普及させていきたい。古い家具を用いた空間デザインもできればよい。 • 着物を双葉町の縫製店にリメイクしてもらい、本日着用してきた。海外からの観光客に購入してもらうことを想定している。どのようにすればより素敵であるか、いくらであれば注文してもらえるかを聞いてみたい。 • リメイクの材料は一度捨てられたもの。リメイク品にお金を使う人があまりいないので、お金を払っても使いたいと思えるデザインを考えたい。 • 着物の処分に困っている人にリメイクの情報を伝える活動ができればよい。 • 双葉町の縫製店は双葉郡にあった学校の制服のミニチュアをデディバアに着せてリメイクしているので、着物でもできそうである。

A. 燻製WG + B. 思い出継承まちづくりWG【合同実施】 対話概要（2 / 2）

参加者	WGテーマに対する発言
リサイクルギャラリー 庵 石橋氏	<ul style="list-style-type: none"> 一軒家の1階で営業しているが手狭であり、家具や器や着物が混在してしまっている。種類ごとに整理して家具館、着物館など分けて販売できればよいが資金がない。 古い織機が店にあるので、縫製会社の事務所の一部を縫製博物館のようなスペースにできればよい。今ある建物を活用して博物館や美術館、展示館のようなものを増やしていけるとよい。 花嫁衣裳を体験してもらいたい。燻製ラボを店の庭で実施してもらい、コラボできないかと考えている。
その他参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅やアンテナショップ、県外イベントへの展開可能性 食品衛生責任者免許の所持と燻製教室への協力意向 形見の着物処分に関するニーズあり 建物解体に伴う思い出喪失への懸念と保存の重要性 縄文遺跡や請戸川の桜など、浪江町の歴史・自然の継承の重要性 海外観光客による着物ハンドメイド体験へのニーズ ●提案 <ul style="list-style-type: none"> 請戸川の鮭など豊富な地元材料の活用 既存資源や道の駅なみえの集客力を活かしたスモールスタート 「り庵」とコラボしたパッケージ制作や漆器・着物素材との組み合わせによる高級商材化 住宅跡地へのコンセプトある空間創出 着物生地を商品パッケージ化して燻製販売

C.スポーツを活用したまちづくりWG 対話概要（1 / 2）

前回コミュニティ部会
発表資料



（二次元コード読み取り）

- 参加者 READY SOCIAL(株) 佐藤氏、鈴木氏、ミズノ(株) 川久保氏
他15名（町内事業者4団体5名、町外事業者7団体10名）

参加者	WGテーマに対する発言
READY SOCIAL 佐藤氏、鈴木氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの力を使って復興を遂げるために昨年度から開始しており、昨年度は16名が移住している。WEリーグの規定だと5,000人規模のスタジアムが求められるが、浪江町の現状ではかなりハードルが高いため、まずはチームとしてはなでしこリーグ1部を目指している。このプロジェクトでは、F-REIの開業（R12）に合わせてクラブハウス合わせてのグランドオープンを見込む。 ・ 2,000人収容規模とした場合でも設計の論点はあるが、浪江駅西側の地域だからこそできることをプレストしたい。 ・ SNSでの発信で大熊町の元町民からコメントをいただいた。町への理解、町への還元が必要と思っている。 ・ オンライン医療モールでは、JR東のスマート健康ステーションを想定。相双地区では大型病院に集約されると地域によっては病院までのアクセスに課題を感じている。
ミズノ 川久保氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他自治体のスポーツ施設でも良く直面する課題として、利用者がスポーツを行う人に限定され、稼働率や収益性が低下すること。地域の人に活用してもらうためにどのような機能を持たせるのか、は検討が必要ではないか。 ・ 具体的には、サッカーのグラウンドに加えて室内施設として全天候でスポーツ活動ができる環境が必要ではと考えている。今後F-REIの関係で外国人も浪江町に多く来訪することが想定されるところ、収益の観点でも日常の利用を生み出せるよう、フィットネスジム機能は必要ではないか。
その他参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の住民が多いが、活動している高齢者は少ない ・ 建設段階からの住民参加による機運醸成と反感の抑制が重要 ・ 選手向け損害保険による貢献可能性 ・ スポーツ施設施工実績や農業等含む当社グループ全体での課題解決貢献可能性 ・ サッカー場施工に関する技術的知見の提供 ・ 当社のe-sportsイベント開催実績を活かした集客支援

C.スポーツを活用したまちづくりWG 対話概要（2 / 2）

参加者	WGテーマに対する発言
その他参加者	<ul style="list-style-type: none">●提案・ IT企業等連携による遠隔地からの応援・交流の仕組みづくり・ スタジアムまでの街路灯演出と初期費用ゼロでのサービス化・ 時間帯に合わせた照度調整可能な屋内照明のフィットネス活用・ サッカーボールを用いた体操による高齢者の健康増進ときっかけ作り・ 浜通り地域の健康増進拠点化（フレイル対策等）・ 浜通りの現状に関する県外への発信・ 有名チーム・指導者をキーとした移住促進・ デジタルワークのリスキリング等による選手への仕事提供・ 全天候型スポーツ環境やフィットネスジム機能による日常利用と収益確保・ サッカー以外の施設全体へのエンタメ性付与による年間稼働日数確保

D.モビリティWG 対話概要

- 参加者 (株)渡辺商店 渡邊氏、川村氏、(株)マスヒロ 増子氏
他11名（町民1名、町内事業者4団体4名、町外事業者3団体6名）

事業アイデアピッチ
発表資料 P.97～



(二次元コード読み取り)

参加者	WGテーマに対する発言
渡辺商店 渡邊氏、川村氏	<ul style="list-style-type: none"> 弊社が立案したモビリティは歩行器具の補助器具のイメージ。速度も6 km/hである。車椅子の派生である。 観光にも活用できるのだが、現時点ではそこまで想定していない。長距離の移動は大型のモビリティで、施設内部の移動など細かい移動に当モビリティの活用を想定。 日頃の移動の悩みなどを解決できると思料。小さな悩みに沿ったモビリティサービスを提供したい。 浪江町ほどモビリティのことを考えている町はなく、全国に先駆けとなりたい。
マスヒロ 増子氏	<ul style="list-style-type: none"> 浪江町以外で土浦市（ゼロカーボンシティ）や裾野市（観光周遊）などでも活動。日本は少子高齢化で、観光地問わず地域のモビリティ不足は課題であり、同時に地域の魅力向上も必要。最近では自転車やキックボードのレンタルはあるが、高齢者向けのモビリティは無い。本来は多様なモビリティで様々な移動を便利にする社会が理想。包括的なプラットフォーム事業が求められている。 裾野市にウーブンシティがオープンしたが、市は関係しておらず、トヨタの研究施設は閉ざされた空間になっている。裾野市自体を乗り物が楽しめるテーマパーク化する構想や、独自性のあるツーリズム（富士山の裾野でモビリティ・ツアー）の創出を提案した。 モビリティツアーは行田市や新宿区の一事業者などにご導入頂き、収益化され始めている。最高速度は20 km/hだが、16歳以上は免許不要であり、外国人・学生・免許返納者まで参加が可能。ツアーのルートはメイン道路は避けて裏道を主体に策定。 地域のローカルルールや規制は、警察署や役場と連携し事前に決定している。東北大と街作り研究学生によるモビリティ社会実験も実施。
その他参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> 通常道路での自動車並走・追い越しの危険性 裏道の狭さや路面環境、車両交差時のリスク対応 駅前事業PRや町中周遊イベントでの活用可能性 夏場の移動負担軽減 免許返納後の高齢者の孤立防止、外出・交流支援の重要性

E.馬とのふれあいWG 対話概要

事業アイデアピッチ
発表資料 P.119～



(二次元コード読み取り)

- 参加者 (一社)SOMA 高橋氏、中澤氏 他6名
(町内事業者3団体3名、町外事業者2団体2名)

参加者	WGテーマに対する発言
SOMA 高橋氏、中澤氏	<ul style="list-style-type: none">・ 駅西についても立派な建物が建つと思うが、その中での馬とのふれあいを憩いの場として使ってほしい。・ 浪江町では巡回車や見守りの車が回っているが、それを馬に担ってもらえると、観光効果も生まれるのではないか。・ 事業上の課題としては、馬の調教やトレーニングに必要な人材育成や確保。競走馬のほとんど殺処分されてしまうというのが社会課題。野馬追でも400頭くらい引退競走馬が活躍しており、その受け皿としても良い場所である。
その他参加者	<ul style="list-style-type: none">●意見、情報提供等<ul style="list-style-type: none">・ 「馬の町」としての認知向上と観光資源化・ リモートワークやオンライン大学との親和性・ スタートアップ支援の一環で、資金調達や顧客マッチングの支援可能性●提案<ul style="list-style-type: none">・ 輓馬（ばんば）タクシーの導入可能性・ 現地訪問の一手手前のきっかけとしてのメタバース活用